



## ○ 愛媛の民家再生活動への寄付のお願い（再掲）

この度の豪雨により、愛媛県は大変な被害を受けました（以下添付）。私たちの友人である宮本幹江さんと土井利彦さんが再生に取り組んでおいでの民家も水害に遭いました。お二人とも以前は小金井にお住まいでした。宮本さんには民族植物学ノオトの編集を無償でいただいています。土井さんとは江戸東京野菜の復活などでご一緒してきました。このご縁もあり、ささやかでも、水害に遭った民家再生活動を支援できるように、ご援助、ご寄付いただければうれしいです。よろしくお願いします。

呼びかけ団体： 自然文化誌研究会（中込卓男代表理事）

寄付受付 郵便振替口座： [00100-2-665768](https://www.facebook.com/ohnaru.ozucity/) 特定非営利活動法人自然文化誌研究会

受付期間： 7月31日から8月31日まで。その後、ご寄付くださった方々には結果報告をいたします。

 2018/07月号  
**「おおなる工房」通信**

<https://www.facebook.com/ohnaru.ozucity/>  
\*文章の一部を変更しています。発行：NPO法人おおなる工房

回覧

7月8日

● 肱川の氾濫で、大川地区に大きな被害が出ています。古民家大石邸もガラス戸が割れて、どこかへ流れ去り、壁の下地がむき出しに。1階内部はめちゃくちゃ、四方が筒抜けの状態になりました。

● ということで、「カフェおおなる」は当分の間、中止します。申し訳ありません。雨が収まってきたら、ぼちぼちと復旧作業を行います。（みきねえ）



7月10日

● このたびの被災に対し、たくさんの方からお見舞いメール、支援のお志をいただき、ありがとうございます。一昨日は宇和島から、昨日は松山と内子から片付けのボランティアに来ていただき、なんとか1階の2/3は片付いたかなという状況です。

● これからも午後はぼちぼちと片付けを行い、早く中のものを片付けて、洗浄・消毒作業に入りたいと思います。（みきねえ）\*写真に写っている軽トラは流されてきたものです。

7月15日

● 連休2日目。松山や砥部町、伊予市、西予市などから、被害を受けた古民家の片付けボランティアに来ていただき、大石邸がだいぶきれいになりました。

● 途中、敷地内にある竹を伐ってきて、みんなで七夕飾りに没頭（笑）。色紙でいろんな飾り切りに挑戦したり、みんなで短冊に願いを書いたりして笹に付けました。

「ささやかな当たり前の日常に早く戻りますように。」

「みんなに本当の笑顔が戻りますように。」

● しばらく短冊を入りに用意していますので、願いごとのある人はどうぞ書いて吊ってくださいね。（みきねえ）



**おおなる工房より** \*「カフェおおなる」は会場が整うまで、お休みします。

このたびの「西日本豪雨」で被災されたみなさまにお見舞い申し上げます。

「まさかこんなことが起こるとは」と、今でも信じられません。

私たちの古民家も上記のような被害を受け、再建の道を探っています。

元気を出すために、夏の終わりに「和の音を楽しも夕べ」を開く予定です！

## ○報告

1. **植物と人々の博物館** 学大探検部収集の民具類も整理・収蔵・展示しています。**森とむらの図書室**では日本の食文化・民俗関係を整理しています。順次資料のリストはホームページで公開しますので、ご利用ください。

2. **雑穀街道とFAO世界農業遺産** FAO世界農業遺産関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道』では、**雑穀街道普及会**の賛同者を募っています。秩父からも賛同してくださる方が増えています。賛同が広がるようにどうぞご援助くださいますようお願いいたします。FAO世界農業遺産ですから他地域や外国の方々も含めて賛同者を増やすように、一層のご助力をお願いします。下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。世界農業遺産などに関する紙ベースの資料・図書は「植物と人々の博物館／森とむらの図書室」（小菅村井狩）で閲覧していただけます。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、『日本雑穀のむら』序章で雑穀の栽培史、第4章で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

3. **藤野での雑穀栽培講習会**は駅前の畑を藤野倶楽部のご厚意でお借りして継続しています。藤野では伝統的にも、新規にも雑穀栽培している方が多くなってきています。

## ○予定

1. **開館作業予定日**：2018年8月9日（木）、17日（金）、27日（月）の予定です。

植物と人々の博物館／森とむらの図書室では、順次、図書・植物標本・資料や民具の展示解説をしています。ご利用くださるとともに、作業にご協力いただきたく、よろしく申し上げます。ご利用や協力いただける方は黒澤または木俣にメールしてください。ご都合に合わせて、上記以外でも日程調整します。

場所は小菅村井狩集落バス停近く、細川邸の前、道の駅臨時駐車場の坂を下ってすぐです。

[kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

2. **子ども料理実習**：8月9日、冒険学校でアフリカ料理のクスクスを作ります。ソースは畑の野菜を使います。

3. **食農教育座談会（再掲）** 食べ物、農業、教育などについて語り合しましょう。ご関心のある方はどなたでも歓迎です。

日時：8月20日（月）午後3時～5時 場所：珈琲館、その後、やる気茶屋（?）

\* 珈琲館は立川駅南口を出て、そのまま2階デッキを行けば、1分、アレアレア2（東急ストアやラーメンスクエアのあるビル、多摩都市モノレール立川南駅を出たところ）の手前にあります。場所不明の場合は、[080-3023-1089](tel:080-3023-1089) 福田携帯にお電話ください。

話題：とりあえず、福田恵一と木俣美樹男が最近思うことなどを話題に、参加者の皆様と一緒に語り合う。

参加費用：特にありません。各自の交通費とコーヒー代のみ。

#### 4. 環境教育学会エクスカーション（再掲）：8月27日（月）。

「源流親子留学」見学ツアー（山梨県小菅小学校）：山村での学びと暮らしの視点から

目的 多摩川の源流域に位置する山梨県小菅村では源流の里づくりを行ってきました。その取り組みのひとつである小菅小中学校の「親子源流留学」により、現在、小菅小学校（全校児童 36 名）ではもともと小菅村住民の子どもの数を上回る移住住民の子どもが在学しています。小中学校ともに不登校はゼロ。このツアーでは、小菅村の学校関係者、児童の保護者、地域づくりに関わる方々からお話を伺い、教育現場、産物・食事、地域づくりの場を巡り、山村の学びと暮らしを見学・体験します。

日程 2018年8月27日（月）

参加費 実費 1,600 円（昼食代 1,500 円+保険代 100 円） ※バス代は無料（定員 20 名）

申込 下記メールアドレスにお申込みください。 [kosugeee2018@gmail.com](mailto:kosugeee2018@gmail.com)

申込締切日 2018年8月5日（日）

スケジュール

8:30 学芸大正門 集合・出発

10:30 小菅小学校到着（小学校2階すげのこホールへ）

##### 1部【小菅小学校訪問】

10:30 小菅教育長・小菅小学校校長ご挨拶

10:40 教頭先生による学内案内（子ども達の学級での様子を見学します。）

11:00 「源流親子留学」事業について（教育長）、小菅小学校の概要と特色について（校長先生）

11:30 親子留学をされている保護者の方からのお話（2家庭の方に教育環境、ひと・自然、地域などの視点で実際の村での生活やお子さんの様子などについてお話をいただきます。）

12:40 昼食：小菅の湯レストラン（源流のイワナ刺身、甲斐サーモン焼き、蕎麦、雑穀ご飯など）

##### 2部【源流地域の紹介】案内：NPO 法人自然文化誌研究会 黒澤と木俣がご案内します。

13:30 村内散策 雑穀見本園～植物と人々の博物館～井狩村営住宅、

15:00 道の駅こすげ（フリータイム、買い物）

15:30 小菅村出発、

17:30 学芸大正門到着・解散予定

5. 「憲法に環境原則を追加する提案」についての研究会を認定 NPO 法人環境文明 21（憲法部会）で行っています。

次回は 8 月 28 日（火）18 時、JR 山手線大崎駅近くの東京都南部労政会館第一会議室、シンポジウムの準備について話し合います。

10 月 20 日（土）に議員会館でシンポジウムを予定しています。ご興味があれば詳細をお知らせします。

現在の提案書（憲法前文と第三章環境を加筆）

は次のホームページで読めます。

<http://www.kanbun.org/2017/170824teigen/170824teigen.html>

6. 日本村塾の自給農耕ゼミ、民族植物学ゼミ、扶桑こくゼミは、希望者があれば日時・場所・話題などを調整して、読書会を開催します。

都市農業や家族農業の図書文献は森とむらの図書室（小菅および藤野分室）で閲覧できます。講演や研究報告はホームページで読めます。

7. 民族植物学第11号をご希望の方に差し上げますので、木俣宛メールください。

第12号の原稿締め切りは2018年8月末予定です。関東地方の雑穀栽培、先真文明への覚書5、書評など準備していますが、ご寄稿を歓迎します。

出版・郵送経費が高くなりましたので、次の第13号からは電子出版のみにする予定です。バックナンバーは第7号～第10号まで少しあり、希望者に差し上げます。第1号から第11号まで、すべての記事は植物と人々の博物館ホームページで読めます。メールマガジンもすべて記録してあります。

ナマステは自然文化誌研究会のホームページで読めます。

8. 『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は民族・信仰について学びながら、南アジアについて、個人の現地調査の体験をまじえながら、自由に書いています。現在はスリランカとバングラデシュの雑穀を研究会に参加し、文献を読んで、学んでいます。『日本雑穀のむら』は序章雑穀との出会い、補論1雑穀の用語法を新たに公開しました。『環境学習原論』および『第四紀植物』、“Essence of Ethobotany”はまだ非公開ですが、書き進めています。

これらは、下記の個人ホームページで読めます。引用して下さる場合は、順次必要に応じて改訂していきますので、「木俣（2018未定稿）」としてくださるようお願いいたします。

\*\*\*\*\*

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミューゼス研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

公式HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

個人HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>